

二〇二三年五月六日

森林浴コースの小道風涼し
噴水のせめぎ合ひして争はず
魚籠の魚大きく跳ぬる立夏かな
金網を伝ふしずくや薔薇の雨
山毛櫨林にひかる一筋山清水
二〇二三年五月五日

代田いま青天井を映しけり
借景に天守を置いて鯉幟
万緑へ土管トンネル出でにけり
丁寧語使ふ孫来し子供の日
村芝居隣村から子を借りて
星よりも街の灯遠き代田かな
綺羅放つ伊吹の尾根の残り雪
二〇二三年五月四日

飛行雲吐き出してをる鯉のぼり
春山路古希祝ひなる登山靴
庭隅に一家犇めく梅雨茸
ベンチとす大切株や百千鳥
新緑の森駆け抜けてドッグラン
学窓の玻璃に張りつく雨蛙
黄水仙海へ雪崩るる岬鼻
燕どち宙返りしてぶつからず
兄妹の手型足型こどもの日
二〇二三年五月三日

満開の薔薇に驟雨の容赦なく
写し絵に子らのお手紙こどもの日
水底の世界は透けてあめんぼう
日焼けせし辞書や憲法記念の日
さつき燃ゆ墓苑に空き地ほつぽつと
行く春や母によく似たこけし買ふ
若葉風総身に受けてペタル踏む
たんぼぼを嗅いで仔犬の綿まみれ
明易や沖の汽笛に目の覚めて

せいじ うつぎ ひのと 素秀 凡士 こそす 凡士 なつき もとこ みきお ひのと 隆松 あられ あひる うつき みきお かえる 凡士 澄子 こすもす なつき

二〇二三年五月二日

健やかに生きて九十路や柏餅
制服もぴったりあひし聖五月
後ずさり出来ぬまいまい枝の先
朝寝してゴミ収集車手渡しに
吹く風に草が応へし夏野かな
濯ぎ物干すに必須夏帽子
郭公の声の餌す牧の朝
つばくらめ紙飛行機とニヤミス
春昼の遅々と進まぬ読書かな
葱坊主ドミノ倒しに風に伏す
二〇二三年五月一日

老幹に苔の太りし緑雨かな
降る雨に大口開けて鯉幟
新緑のアーチの先に異人館
緑陰に折る白亜のマリア像
信号待ち頭上掠めてつばくらめ
水底のあめんぼうの影杳を履く
新緑の斑をなしぬ雑木山
パンジーの風を掬いて大風車
巣を作りはじめしと見る若葉影
花菫咲く城壁は野面積
草のびて八十八夜の雨後の畑
二〇二三年四月三〇日

コロナ禍の連休お庭でキャンプかな
四囲の山膨れ迫りて夏来る
瘦身を隠すは難しうすごろも
抽斗にテレホンカード昭和の日
新道より観る旧道の懸り藤
縁石へ覆いかぶさり立浪草
缶コーヒー飲み干す目線つばめ飛ぶ

澄子 満天 董雨 ひのと 智恵子 凡士 ともこ あひる うつき きよえ せいじ やよい うつき 宏子 明子 澄子 千鶴 智恵子 明日香 やよい うつき うつき たか子

毎日句会みのる選・二〇二三年五月八日